

心理測定における妥当性確認方法論の検討

岩月 拓 (名古屋大学情報科学研究科)

本発表では、心理測定における妥当性確認方法論を、それを基礎付けるための枠組の分析を通して検討する。心理学の研究プロセスの一つに、個人の心理属性の大きさを「右翼的権威主義尺度」や「偏見の統制に対する内的欲求尺度」などの心理尺度を用いて測定するという手続きがある。実験・調査によって仮説を検証し理論を構築するためには、尺度が妥当性を持っていないといけない。すなわち、そこで用いられる尺度は、意図した心理属性を捉えていなければならない。現在の心理学には、尺度の妥当性を確認するための標準的な方法がいくつか存在しており、それらの方法の基礎付けを行うための有力な方法論的枠組として、心理学者の Cronbach と Meehl が提案した枠組がある。本発表では、彼らの枠組を批判的に分析することを通して、妥当性確認法によって何が明らかになるといえるのか、それらの方法が依拠する前提は何なのか、といった問題を検討する。

主要参考文献

Bogen, James and James Woodward (1988) "Saving the Phenomena," *Philosophical Review*, Vol. 97, No. 3, pp. 303-352.

Cronbach, Lee J. and Paul E. Meehl (1955) "Construct Validity in Psychological Tests," *Psychological Bulletin*, Vol. 52, No. 4, pp. 281-302.